



8月 盆行事

八千代市内では8月13日から15日にかけて行われる盆行事。時代とともに姿を大きく変えていながらも、代々受け継がれ、私たちの生活の中に深く根ざした行事であることに変わりはありません。今回は、そんな盆行事について紹介します。

○お盆とは

この行事は仏教の行事である盂蘭盆会や日本古来の祖霊信仰*、農耕儀礼などの要素が混じり合い、現在のかたちになったと考えられています。

◇ 盂蘭盆会

釈迦の弟子である目蓮は、母が餓鬼道（地獄）に落ち、食べ物を食べることが出来ず苦しんでいる夢をみました。これを不憫に思い、ご馳走を供え法会を行いました。これが盂蘭盆会の始まりとされています。

◇ 祖霊信仰

日本では昔から、正月と盆を節目に1年を2つに分けて考えていました。この時には祖先が帰ってくるものとされ、祖先の霊を祀り子孫繁栄を祈ります。供物をのせる器のことを「盆」と言い、しだいにこの器で祭られるもの自体をさすようになりました。これと盂蘭盆が混ざり合い、「盆」という名が定着したと考えられています。

◇ 農耕儀礼

盆棚に収穫したナスやキュウリなどを供えます。これは五穀豊穰を感謝する収穫祭としての意味が含まれています。

○盆行事のあれこれ

◇ ドウナギ

行事の初めに墓掃除をし、アラレとよばれる供物をのせたガラガラ（真菰で編んだ膳）を供えます。アラレはナスやキュウリを刻み、米を混ぜた物が一般的です。ガラガラは地域によって脚がある物と無いものがあります。



安養院の墓地に供えられたガラガラ
平成21年8月17日撮影

◇ 盆棚

新竹を四角に建て、ここに真菰の縄を張り、ホオズキや稲穂など作物を吊します。テーブルなどで棚を作ってゴザを敷き、位牌とともにナスやキュウリ、スイカ、草花など

を供えます。新盆*の家では1日早く、賑やかに飾り付けします。13日には迎え団子を供え、霊を迎えてからは家ごとに日によって何を供えるか決まっています。

◇ 迎え火、送り火

13日の夕方、近くの辻や墓場まで行き、提灯に灯を灯して霊を呼びます。そのまま連れて帰り、玄関先で水を撒いて足を洗わせてから、盆棚に霊を迎えました。

15日の夜には家から提灯に灯を灯し、迎えに行った場所まで霊を送って行きます。



新盆灯明立て（電気式）
当館蔵

◇ 高灯籠

新盆の家では、新しい霊が迷わないように、庭に高灯籠を建てます。この灯籠は24日まで毎日灯を灯しました。

◇ 盆棚流し

かつては盆棚をくずすと近くの川に行って流しました。お供え物は送り団子とともに真菰のゴザに包んで流します。最近では川を汚さないために、墓や家の裏で燃やしたりゴミとして処理します。

○お盆の始まる日にちは？ 終わる日にちは？

祖先の霊を迎えた13日から15日が盆行事の中心になりますが、お盆が始まるのは8月1日からです。この日は地獄の釜の蓋が開く日とされ、釜蓋朔日と呼ばれます。この日からお盆の準備にとりかかり、真菰を刈り乾燥させたりします。7日には真菰馬*を用意し、祖先の霊を迎えます。

終わりは盂蘭盆の8月24日で、新盆の家ではこの日に高灯籠や盆棚をくずします。

本内容は、2010年8月より郷土博物館旧ホームページ内「民俗探検隊」コーナーで掲載していた記事を再編集したものです。



*ちょっと付け足し

祖霊信仰…亡くなくてもお盆には帰ってくる、など祖先の霊に対する日本人独特の考え方のこと。

新盆…人が亡くなってから初めて迎える盆のこと。「にいぼん」ともいう。

真菰馬…祖先の霊が乗るための馬。詳しくは「やち博ライブラリー第2号」で紹介しています。

参考文献：『八千代市の歴史 資料編 民俗』

『日本民俗文化大系9 暦と祭事＝日本人の季節感覚＝』小学館

『日本年中行事辞典』角川小辞典

『日本の年中行事百科 民具で見る日本人の暮らし

Q&A ③ 夏』河出書房新社

やち博ライブラリー 第3号

発行日 令和2年9月9日

編集・発行 八千代市立郷土博物館